

草創期 ～ボランティアグループとして～



あさみどりの会のあゆみ

育み、取り組んできたこと



昭和32年
（1957年）
伊藤^{みちかみ}方丈、子どもの教育問題について社会啓蒙活動を始める。
（伊藤方丈が昭和45年に受賞した「キワニス社会公益賞」賞状に、昭和32年以来社会の啓蒙につとめ」とあり、この年をあさみどりの会の始まりとした。）

昭和33年
（1958年）
中条雅二、水谷京、長沼兵三、伊藤方丈らは、毎月子どもの生活を考える雑誌「青い空」を発行する。

昭和34年4月
（1959年）
長沼兵三、橘小学校特殊学級の担任となり、伊藤方丈長沼学級の記録映画制作に協力、これより「青い空」のグループは、精神薄弱を中心とする障害児問題に焦点を絞って活動することになる。

8月
長沼兵三らが企画した親と子の合宿（於・三河相楽山荘）に伊藤方丈らが協力。（1泊2日）

昭和35年6月
（1960年）10月
名古屋手をつなぐ親の会からの委嘱映画「いずみ学園」制作。
菊井中学校特殊学級の委嘱により同学級の職業教育を紹介した映画「働く子ら」制作。

昭和36年2月
（1961年）
名古屋手をつなぐ親の会の啓蒙活動を支援して映画「わが愛と祈り」の制作開始、フジフィルム集会所で完成試写会を開く。（4月11日）

6月
21日、長沼兵三らの企画した親と子の合宿を中日新聞社会事業団が主催することになり、三河相楽山荘での第1回親と子のサマースクールに伊藤方丈、榊原和彦ら記録映画班として参加。（昭和39年まで）

昭和37年7月
（1962年）
尾原信夫氏一家の協力により映画「静かな波紋」の制作開始。名城小学校講堂で完成試写会。（8月26日）

11月
精神薄弱に関する映画の企画開催。（全国特殊教育研究大会随伴行事として）

昭和38年7月
（1963年）
アサヒ梶島キャンプ写真取材。
「第2回親と子のサマースクール」（於・犬山ユースホテル）写真取材。

昭和39年3月
（1964年）
南山大学写真部杉野邦彦らの積極的な協力によりカメラ・ルポ「精神薄弱」を制作することとし、あけぼの学園の許可を得て撮影開始。

6月
21日、カメラ・ルポ第1集「明日を待つ子たち」刊行。
機関紙「あさみどり」発行。（No.39・昭和51年まで発行）

昭和40年1月
（1965年）
長沼兵三の紹介により伊勢市のアマチュア写真家浜口主一氏がカメラ・ルポの制作に協力することとなり、カメラ・ルポ第2集「教室の小菩薩たち」の制作に着手、5月5日刊行。

6月
名古屋西ライオンズクラブの協賛により岸本鎌一氏監修映画「あなたご存知ですか」の制作開始。ニューナゴヤにおいて完成試写会（11月3日）。次いでCBCからオン・エア、厚生省推薦映画となる（12月24日）。

昭和41年1月
（1966年）
22日、第1回心身障害者問題を理解する集い「心身障害児問題の根本をさぐる」開催。（於・市教育館講堂、以後、朝日新聞名古屋厚生文化事業団と共催。平成27年度まで会場を朝日ホールに移して開催。以降令和4年現在で59回）

4月
1日、古橋金一、山家拓、鈴木皓代らおよびボランティア6名が協力して事務局（伊藤方丈自宅）に「療育相談室」を開設。

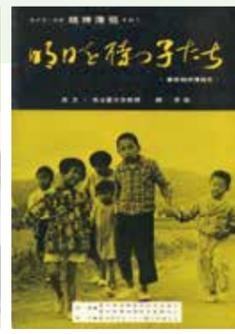
5月
27日、第1回障害児問題研修旅行「精神薄弱者を雇用している工場」を浜松市末久二男氏のあっせんにより実施。（昭和54年まで）
7月
7日、カメラ・ルポ第3集「働く愉快な仲間」刊行。
糸賀一雄氏「この子らを世の光に」の映画化を了承される。



動く愉快な仲間 (昭和41年)



教室の小菩薩たち (昭和40年)



明日を待つ子たち (昭和39年)



映画「わが愛と祈り」撮影 (昭和36年)



創立者 伊藤方丈氏 (昭和32年)



第1回心身障害者問題を理解する集い (昭和41年)



「あなたご存知ですか」映画リーフレット (昭和39年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和32年 市 障害児通園施設「みどり学園」開設

昭和33年 国 6月、国立知的障害児施設「秩父学園」開設。（所沢市）

昭和34年 市 伊勢湾台風襲来。
9月、障害児入所施設「名古屋市あけぼの学園」開設。

昭和35年 国民皆保険制度が確立。

昭和36年 国 「精神薄弱者福祉法公布施行。（平11・知的障害者福祉法に改正）
11月、「全国肢体不自由児父母の会連合会」結成。

昭和36年 県協会 3歳児検診始まる。
11月、第1回精神薄弱児施設東海ブロック大会を名古屋で開催。
「愛知県精神薄弱者愛護協会」結成。

昭和38年 山崎すみ子氏宅に重度児の授産所「すぎなの家」を開設。
川崎昂氏宅に「ひかり学園」開設。
水上勉氏「拜啓池田総理大臣殿」を書く。

昭和39年 県協会 10月、第1回全国精神薄弱施設研究協議会を名古屋で開催。（以後、全国大会として各都道府県持ち回りで開催）
東京オリンピック開催。
パリンピック東京大会開催。

昭和39年 団体 「全国重症心身障害児（者）を守る会」結成。
9月、第1回精神薄弱者福祉月間実施。（以後毎年）
11月、県内精神薄弱児施設、特殊学級合同運動会をあけぼの学園で開催。

昭和40年 大阪「ボランティア協会大阪ビューロー」設立。現在の大阪ボランティア協会。日本初のボランティアスクール開設。
国 「理学療法士及び作業療法士法公布。全国精神障害者家族連合会結成。

市 白金精神薄弱児相談室開設
年間を通じて施設長会と施設長研修を開催。永年勤続職員顕彰を開始。

あさみどりの会のあゆみ

- 昭和42年1月 8月 27日、28日、安居会開催。(於・名古屋大乗寺、昭和44年まで) 10日、16日、三和銀行栄町支店の協力によりこの子らの写真展を(1967年) 同行ロビーで開催。
- 3月 27日、資料No1「遺伝と精神薄弱」刊行。
- 5月 7日、神戸市の誕生日ありがとう運動本部から映画「この子らを世の光に」の制作資金として30万円寄付される。
- 6月 6日、資料No2「血液型と心身障害」刊行。
- 10月 9日、10日、手をつなぐ親の会主催の重度児一泊旅行(於・稲武野外教育センター)にボランティアを派遣。
- 昭和43年1月 23日、社団法人あさみどりの会設立認可、理事長伊藤方文。(1968年)4月 5日、糸賀一雄氏立ち会いのもとに「この子らを世の光に」岐阜長良荘においてクラク・イン。
- 6日、アキ・クロツカ氏からケネディ大統領の願いをこめて製作されたロウソク『希望の灯』寄贈される。
- 7月 ボランティア養成を目的として第1回心身障害児のためのボランティア療育援助研修会を開催。(於・東別院青少年会館、各10回、昭和51年まで、以後ボランティアスクールに移行する。) 9月 母親のための第1回こどもの精神衛生講座開講。(於・東別院青少年会館) 18日、糸賀一雄氏急逝。(54歳)
- 10月 2日、糸賀一雄氏を偲びつつ「この子らを世の光に」完成披露映画。(於・東別院青少年会館)
- 昭和44年4月 2日、資料No4「幼児期の再検討」刊行。
- (1969年)5月 20日、資料No19「育つための条件」刊行。
- 7月 20日、「心身障害児の療育援助のために」刊行。
- 12月 1日、聖心教会の支援により教会の部屋を借りてボランティアの力で毎週3回ずつ在宅幼児集団指導を開始。第1回在宅の重い心身障害児(者)年末訪問実施。(昭和49年まで)
- 昭和45年1月 15日、機関紙「あさみどり」を季刊の会誌とすることとなりNo22(1970年) 15日、機関紙「あさみどり」を季刊の会誌とすることとなりNo22
- 3月 23日、第1回障害幼児を援けるバザーを開催。(於・日赤講堂) 5月 1日、会報「さわらび」創刊。(幼児療育相談所(聖心教会内)発行、No11よりさわらび園発行、昭和49年No14まで確認)
- 6月 10日、心身障害児に対する市民の認識調査を開始。
- 7月 19日、瀬戸はちのす寮の協力で心身障害児母子のためのホリデー・センター「みどりの苑」を開設。(昭和51年まで)
- 8月 5日、会の意見として「地域保護の観点に立つ心身障害児の処遇」を発表。
- 9月 27日、市内特殊学級の協力を得て彫塑展開催。
- 11月 27日、伊藤方文名古屋キワニスクラブよりキワニス社会公益賞受賞。
- 昭和46年2月 6日、映画「ぼくのなかの夜と朝」特別試写会開催。(於・東別院青少年会館) 4月 6日、日本短波放送、聖心教会での幼児集団指導取材した「母子通園1年を省みて」を放送。
- 9月 27日、10月2日、ボランティア育成のために第1回コロニー宿泊奉仕(6日間)実施。
- 10月 6日、昨年末に制作を開始した映画「ひろがれ愛の波紋」完成特別試写会開催。
- 11月 5日、NHK名古屋、聖心教会での集団指導取材した「幼児療育相談所の子どもたち」を放映。



映画「この子らを世の光に」撮影開始 岐阜長良荘にて(昭和43年)



糸賀先生撮影を立ち会う(右端)(昭和43年)



キワニス社会公益賞(昭和45年)



映画「この子らを世の光に」リーフレット(昭和43年)



みどりの苑のキャンプ(瀬戸市、昭和45年)



第1回障害幼児を援けるバザー(昭和45年)



聖心教会で在宅幼児集団指導(昭和44年)



ボランティア研修(コロニー見学)(昭和43年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

- 昭和42年 市 法改正による授産施設の草分けとして「名古屋市白金職能訓練室開設」
- 団体 「自閉症母親の会」結成。
- 昭和43年 国連総会にて「児童権利憲章」採択。
- 県 愛知県心身障害者コロニー開設。
- 市 「愛護手帳」交付開始。
- 県協会 5月、職員研修会に糸賀一雄近江学園長を講師に招く。
- 昭和44年 県 愛知県コロニー「春日台養護学校」が開校。
- 市 児童手当 交通遺児手当制度実施。
- 昭和45年 大阪万博(日本万国博覧会)開催
- 国 「心身障害者対策基本法」公布。
- 昭和46年 国 「児童手当法」公布。
- 国立コロニー「のぞみの園」開所(高崎市)
- 愛知県コロニー「春日台授産所」、名古屋市若杉作業所、社会福祉法人ゆたか福祉会「ゆたか作業所」の3つの授産施設が開所。
- 県 愛知県コロニー「緑の家」で短期母子療育を開始。
- 市 名古屋市児童福祉センター開所。
- 昭和45年 県 愛知県コロニー「中央病院」が開院。
- 昭和46年 映画「ひろがれ愛の波紋」リーフレット(昭和45年)



映画「ひろがれ愛の波紋」リーフレット(昭和45年)

社会福祉法人設立から現在まで

あさみどりの会のあゆみ

昭和47年度 4月 5日、通常総会、この総会において社団法人を解散して社会福祉法人を設立することを議決。
 (1972年)

17日、社会福祉法人あさみどりの会設立会議。(於・東別院青年会館やわらぎの間)

理事長 堀要、理事 鈴木末造、村上英治、松原正之、中北智久、牧野正男、伊藤方文、監事 黒宮光一、原 浩

6月 30日、親たちをはじめ多くの人々の支援を得て、建設を計画していた障害幼児母子通園施設「さわらび園」は、日本自転車振興会の補助によって創設することとなり建設工事を開始。

11月 24日、社会福祉法人あさみどりの会設立認可。

12月 1日、「さわらび園」精神薄弱児通園施設として開園(定員30名、千種区新池町)、園長に伊藤方文就任。16日、落成披露の会。

さわらび園後援会発足。(会長大橋一八)

2月 24日、公開講座を開催。(於・中区役所)

3月 18日、幼児療育を授けるバザー開催。(於・さわらび園)

26日、コロナ一泊研修実施。

昭和48年度 4月 3日、幼児療育研究会開催。(於・さわらび園)
 (1973年) 9月 5日、一部職員による労働組合結成(団体交渉等による療育の混乱が昭和52年まで続く)

10日、在宅障害児の処遇を補完するために、ボランティアによる家庭療育援助活動を推進することを考え、テスト・ケースとして6家庭に対し援助開始。

11月 12日、さわらび園園長清水武利就任。(伊藤方文あさみどりの会事務局専任)

10日、12日 ボランティア活動研究のため各グループの代表10名を大阪ボランティア協会に派遣し「ボランティア活動の推進について」懇談。(於・大阪日生会館)

市内の在宅障害児(者) 現況調査。

昭和49年度 4月 1日、さわらび園暫定定員23名。(当年度のみ)
 (1974年) 16日、家庭療育援助活動を開始し、毎月第3火曜日に援助者の

援助活動検討会を実施。

6月 1日、2日、ボランティア合宿研修会実施。(於・はちのす寮)

10日、家庭療育援助者の教育と、この活動に対する理解を社会に促進するための機関紙「療育援助」(心身障害児(者)のためのボランティア活動)創刊。(以後継続。令和5年3月現在で577号)

7月 22日、23日、耳の不自由な子どもたちの親の会の要請により難聴児のキャンプにボランティア13名派遣。

昭和50年度 4月 1日、理事島崎春樹就任。(松原正之退任)
 (1975年) さわらび園園長島崎春樹就任。(清水武利辞任)

5月 1日、あさみどりの会「連絡事務所」開所。(中区上前津中野ビル2F)

7月 さわらび園夏季特別療育実施。(さわらび園・はちのす寮)

8月 第1回しんいけ盆踊り開催。(以後継続。令和4年現在第44回)

10月 6日、9日、なかよしキャンプ開催。(三重県員弁郡藤原町にて障害児と健常児の混合キャンプ、昭和51年まで継続)

昭和51年度 10月 第1回さわらび運動会開催。(昭和56年までさわらび園横どんぐり広場にて、昭和57年からはわらび福祉園、平成7年からはべに

心身障害者のトレーニング・ルーム開設。(上前津連絡事務所、毎週月・金曜日・昭和54年まで)

さわらび園の新規事業

入園時の両親面接、母親のグループカウンセリング週1回2グループで実施、父親参観日を年3回実施、年末懇親会、母親の療育参加、水曜療育、親子療育キャンプ これらは以後継続実施。

4月 20日、ボランティアサロン20開始。(月1回、昭和52年まで)

5月 9日、新池子どもクラブ(地域の小学生対象)発足。

6月 1日、第1回ボランティアスクール開講。(療育援助研修会から切換え、以後継続)

水曜療育グループ開始。(毎週水曜日午後1時~3時、以後継続)



尾高キナーハイム(昭和51年)



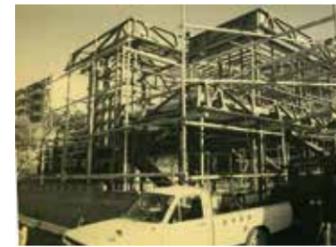
新池子どもクラブ発足(昭和51年)



第1回さわらび運動会(昭和50年)



第1回しんいけ盆踊り(昭和50年)



さわらび園建築始まる(昭和47年)



初代理事長 堀 要(昭和47年)



第1回さわらび園親子療育キャンプ オリエンテーション 吉田とき江(昭和51年)

昭和51年 10月、在宅重症心身障害児・者緊急一時保護制度実施。



療育援助(創刊号)

(平10・日本知的障害福祉連盟に改称)

昭和50年 9月、「働く仲間の展示会」開催(県内の授産施設が7カ所になり、愛護月間行事として開催) 昭和51年より「ほくらの展示会」へ移行。通費助成制度開始。

昭和49年 国 通園施設の国制度が改革され、入園の要件が緩和された。

昭和48年 国 「療育手帳制度要綱」通知。

県協会 名古屋市特殊教育協議会、名古屋手をつなぐ育成会と県協会の3団体懇談会開始。

県市 愛知県・名古屋市が「民間社会福祉施設運営費補助制度」を開始。

市 「名古屋障害児保育研究会」発足。

10月、心身障害者医療費助成制度実施。



さわらび園(道路脇に水路がある)

昭和47年 県下初の通園寮「岩崎通園寮」開設。

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和57年りとるくろくろと名称変更)
 7月 17日、第1回さわらび園親子療育キャンプ実施。(於・三重県菰野町尾高キングダムハイム、14家族が参加、以後継続)
 30日、8月2日、第1回新池子どもクラブキャンプ(於・岐阜県郡上郡大和村 島崎宅、以後継続)
 8月 7日、8日、第2回しんけい盆おどり。(地域からの参加多数、ボランティアが模擬店を出す)
 11月 3日、第2回さわらび運動会。(子どもクラブ40名、名広愛児園鼓笛隊30名、ボランティア150名、初めて風船を飛ばす。)
 3月 さわらび園 労使紛争収束
 昭和52年度 4月 ボランティアサロン開催。(毎月第1土曜日に実施。昭和54年まで)
 5月 27日、ミトラ教授講演会「重い知恵遅れの子どもの教育と福祉」。
 20日、さわらび園増築完工式典、今後はさわらび園、療育相談所、ボランティア・センターの機能を併せもつ「あさみどり会館」と総称する。
 さわらび園の母親グループカウンセリングを本格的に開始。
 6月 心身障害児の母親研修会開催。(以後継続)
 療育問題研修講座開講。
 7月 17日、第1回公開講座「こころ」開催。
 8月 伊藤方丈著「この子らと」刊行。
 9月 4日、伊藤方丈著「この子らと」出版と中日功労賞受賞を祝って記念会を開催。(於・東山会館)
 10月 お母さん教室開催。(昭和56年まで)
 11月 「地域福祉の実践とその背景」刊行。
 6日、第2回公開講座「運動機能」開催。
 1月 ロータースクーポン収集開始。(平成5年頃まで、他に古切手収集も実施)
 2月 11日、第1回さわらび祭バザー開催。(以後継続)
 3月 監事北野博一就任。(黒宮光一退任)
 「さわらびグループ」結成、婦人ボランティアのグループとしてさわらび園の療育ボランティアを開始する。(以後継続)



母親グループカウンセリング



第1回母親研修会(昭和52年)



あさみどり会館開所記念(昭和52年)

昭和53年度 (1978年)
 さわらび園卒園児の母親の会「四季の会」発足。(代表服部美子、35名参加)
 ケースカンファレンス開始。スーパーバイザーに堀要Dr。(月1回、昭和58年まで)
 4月 ハーグリース氏講演会。
 9月 22日、全国精神薄弱関係施設長会議の通園部会にて、さわらび園の療育の体系についてまとめた「子どもは育つ」発表。好評を得、全国各地からの見学者が多くなった。
 9月25日、27日、水曜療育キャンプ開始。(郡上郡大和村 島崎宅、以後継続)
 10月 28日、第1回わたぼうし名古屋コンサート開催。
 (於・市公会堂、昭和55年まで)
 地域的一般小中学生を対象にグループ学習を週2回実施。(昭和55年まで)
 12月 監事河野博太郎就任。(原浩退任)
 富田療育グループへ集団療育援助開始。(平成2年まで)
 (国際児童年)
 昭和54年度 (1979年)
 母親の会「みどりの会」発足。(代表鈴木美知子・8名参加)
 4月 記録映画「コミュニティケアへの道」制作委員会発足、募金活動開始。(10月知多市にてクラクイン)
 5月 さわらび園の1年間の療育を撮った8mm映画「坂道をのぼる子ら」が完成。(ボランティアグループシネマとコピーが製作)
 カウンセリングセミナー開始。(カウンセラー石原文理他、平成6年まで)
 8月 国際児童年会場(愛知青少年公園)へ、さわらび園の子らの写真パネル多数出品。
 12日、伊藤方丈事務局長逝去(69歳)、同14日の葬儀には600余名が参列(葬儀会場さわらび園にて)。
 昭和50年5月から開所していた上前津の事務所を閉じる。後任理事に伊藤伊登子就任。
 20日、NHK社会福祉施設社会化奨励賞をさわらび園



療育援助—伊藤方丈氏の追悼特集(昭和54年)



映画「コミュニティ・ケアへの道」撮影(昭和54年)



第1回わたぼうしコンサート(昭和53年)



わたぼうしコンサートに集まった観客

昭和53年 市 児童福祉施設入所児童、戦傷病者、原爆被爆者、精神薄弱者市宮交通料金無料化実施。「障害児保育指導委員会」設置。
 県協会 授産施設ソフトボール大会を9チーム参加で実施。

昭和54年 国 「養護学校教育」義務化。障害児保育制度実施。
 県協会 「国際児童年」の主会場が愛知県に設けられたので、これに参加するとともに、県協会は「ぼくらの展示会」をはじめ各種主催行事を開催した。



さわらび祭バザー(昭和52年)

昭和52年 国 1歳6カ月児健康診査制度創設。
 県協会 「療育研究会」「対外対策」「広報」事業の4委員会を設置し事業の活性化を図る。
 市 拠点方式と通所方式による「療育グループ」を開始。

あさみどりの会のあゆみ

昭和55年度 母親の会「美樹の会」発足。(代表井戸節子・10名参加)
 (1980年) 4月 西加茂郡三好町から土地の提供を受け、精神薄弱者通所授産施設「わらび福祉園」を建設することに決定。
 5月 療育援助カンファレンス実施。(活動中のボランティアの学習、平成16年まで)
 さわらび園OB有志会発足。(会長 鈴木美知子・昭和57年にあさみどりの会後援会に名称変更)
 10月 地域秋まつり獅子宿、園児参加。(以後継続、現在園児は参加していない)
 中川療育グループへ集団療育援助開始。(平成10年頃まで)
 11月 同朋大学心身障害福祉研究会「ソロプチニスト青少年ボランティア賞」受賞。
 昭和56年度 「国際障害者年」
 母親の会「わらの会」発足。(代表小林苑子・36名参加)
 (1981年) 4月 11日、シンポジウム「障害者の社会参加」を開催。
 5月 8日映画「小さなともだち」完成。
 8月 7日、わらび福祉園起工式。
 10月 婦人ボランティア講座を開催。(平成元年まで継続)
 11月 10日、記録映画「そつちやないこつちや」(コミュニティケアへの道)完成。11日あさみどりの会館、15日名古屋、16日一宮、20日岡崎、24日豊橋にて完成発表会。(小野宏氏講演)
 14日、第一回なないろコンサートを開催。(於：市公会堂、昭和63年まで毎年開催、その後随時開催)
 3月 あさみどりの会館ボランティア集会開催。
 師勝町療育グループへ集団療育援助開始。(平成16年まで継続、これ以降も療育グループは継続)
 「わらび福祉園」開設。(通所授産施設定員30名・西加茂郡三好町) 20日竣工式。授産生8名で出発。
 わらび福祉園園長島崎春樹就任。
 さわらび園園長島崎左世就任。(島崎春樹異動)
 昭和57年度 4月 水曜療育グループを「りりくるるうぶ」と改名、名古屋市の補助事業となる。
 さわらび園OB有志会をあさみどりの会後援会に名称変更。
 わらび福祉園母親学習会(助言者堀要理事長の後、鈴木国夫Dr、以後継続)
 6月 わらび福祉園父親懇談会開催。(以後継続)
 15日、さわらび園のお母さんの手記を中心まとめた「坂道をのぼる子ら」刊行。
 10月 わらび福祉園一泊研修旅行。
 16日、18日、全国精神薄弱施設職員研究大会が名古屋で開催、全体発表で母親学習について発表。
 機関紙「療育援助」100号記念特集。
 11月 新川町療育グループへ集団療育援助開始。(平成元年まで継続)
 あさみどりの運動会(この年からさわらび園とわらび福祉園の合同運動会)
 1月 9日、さわらび園開園10周年記念会(於：愛知厚生年金会館)
 3月 わらび福祉園ナイトケア開始。(平成元年まで継続、それ以降生活実習として実施)
 昭和58年度 7月 23日、第一回わらび夏まつり開催。(以後継続、平成27年からは秋まつりとして開催)
 (1983年) 10月 さわらび園親子宿泊療育開始。(春秋年2回、以後継続)
 11月 理事伊藤方一就任。(伊藤伊登子退任)
 12月 3日、理事長堀要逝去(76才) 同6日の葬儀には1,300余名が参列。
 理事長北野博一就任。監事鈴木国夫就任。
 2月 旅立ちを祝う会開催、あさみどりに関わってくれた学生ボランティアの卒業と社会人としての出発を祝う会を行う。(以後継続)
 母親の会「すばるの会」発足。(代表塩原光子・24名参加、これ以降さわらび園卒園児の母親の会は3年ごと)に結成)
 (1984年) 4月 インシデント・プロセス法によるケースカンファレンス開始。スーパーバイザーに小野宏Dr。(月一回、以後継続)
 5月 さわらび園、天皇陛下よりご下賜金を賜る。
 7月 わらび福祉園夏休み小中学生の実習生受入れ開始。(以後継続、

昭和55年度 母親の会「美樹の会」発足。(代表井戸節子・10名参加)
 (1980年) 4月 西加茂郡三好町から土地の提供を受け、精神薄弱者通所授産施設「わらび福祉園」を建設することに決定。
 5月 療育援助カンファレンス実施。(活動中のボランティアの学習、平成16年まで)
 さわらび園OB有志会発足。(会長 鈴木美知子・昭和57年にあさみどりの会後援会に名称変更)
 10月 地域秋まつり獅子宿、園児参加。(以後継続、現在園児は参加していない)
 中川療育グループへ集団療育援助開始。(平成10年頃まで)
 11月 同朋大学心身障害福祉研究会「ソロプチニスト青少年ボランティア賞」受賞。
 昭和56年度 「国際障害者年」
 母親の会「わらの会」発足。(代表小林苑子・36名参加)
 (1981年) 4月 11日、シンポジウム「障害者の社会参加」を開催。
 5月 8日映画「小さなともだち」完成。
 8月 7日、わらび福祉園起工式。
 10月 婦人ボランティア講座を開催。(平成元年まで継続)
 11月 10日、記録映画「そつちやないこつちや」(コミュニティケアへの道)完成。11日あさみどりの会館、15日名古屋、16日一宮、20日岡崎、24日豊橋にて完成発表会。(小野宏氏講演)
 14日、第一回なないろコンサートを開催。(於：市公会堂、昭和63年まで毎年開催、その後随時開催)
 3月 あさみどりの会館ボランティア集会開催。
 師勝町療育グループへ集団療育援助開始。(平成16年まで継続、これ以降も療育グループは継続)
 「わらび福祉園」開設。(通所授産施設定員30名・西加茂郡三好町) 20日竣工式。授産生8名で出発。
 わらび福祉園園長島崎春樹就任。
 さわらび園園長島崎左世就任。(島崎春樹異動)
 昭和57年度 4月 水曜療育グループを「りりくるるうぶ」と改名、名古屋市の補助事業となる。
 さわらび園OB有志会をあさみどりの会後援会に名称変更。
 わらび福祉園母親学習会(助言者堀要理事長の後、鈴木国夫Dr、以後継続)
 6月 わらび福祉園父親懇談会開催。(以後継続)
 15日、さわらび園のお母さんの手記を中心まとめた「坂道をのぼる子ら」刊行。
 10月 わらび福祉園一泊研修旅行。
 16日、18日、全国精神薄弱施設職員研究大会が名古屋で開催、全体発表で母親学習について発表。
 機関紙「療育援助」100号記念特集。
 11月 新川町療育グループへ集団療育援助開始。(平成元年まで継続)
 あさみどりの運動会(この年からさわらび園とわらび福祉園の合同運動会)
 1月 9日、さわらび園開園10周年記念会(於：愛知厚生年金会館)
 3月 わらび福祉園ナイトケア開始。(平成元年まで継続、それ以降生活実習として実施)
 昭和58年度 7月 23日、第一回わらび夏まつり開催。(以後継続、平成27年からは秋まつりとして開催)
 (1983年) 10月 さわらび園親子宿泊療育開始。(春秋年2回、以後継続)
 11月 理事伊藤方一就任。(伊藤伊登子退任)
 12月 3日、理事長堀要逝去(76才) 同6日の葬儀には1,300余名が参列。
 理事長北野博一就任。監事鈴木国夫就任。
 2月 旅立ちを祝う会開催、あさみどりに関わってくれた学生ボランティアの卒業と社会人としての出発を祝う会を行う。(以後継続)
 母親の会「すばるの会」発足。(代表塩原光子・24名参加、これ以降さわらび園卒園児の母親の会は3年ごと)に結成)
 (1984年) 4月 インシデント・プロセス法によるケースカンファレンス開始。スーパーバイザーに小野宏Dr。(月一回、以後継続)
 5月 さわらび園、天皇陛下よりご下賜金を賜る。
 7月 わらび福祉園夏休み小中学生の実習生受入れ開始。(以後継続、



わらび福祉園ナイトケア (昭和59年)



北野博一理事長 (昭和58年)



さわらび園開園10周年記念会 (昭和58年)



「坂道をのぼる子ら」(昭和57年)



第1回なないろコンサート (昭和56年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和55年 市 身体障害者、精神薄弱者、戦傷病者及び原爆被爆者に対し東山動植物園等公共施設の無料入場実施。
 県協会 第1回福祉の店開催。(於：松坂屋リビンザ)
 昭和56年 国際障害者年「完全参加と平等」をテーマに、始まる。(協賛の各種行事が日本全国で開催される)
 県 愛知県障害者スポーツ大会開催。
 市 5月、身体障害者スポーツセンター開設。9月、「障害児早期療育指導委員会」設置。11月、「障害者と市民の集い」開催。
 県協会 ふれあい大運動会開催。
 昭和57年 市 在宅障害児療育相談事業を通園施設で開始。
 県協会 第20回全国精神薄弱施設職員研究大会開催。(於：名古屋)
 昭和58年 「国連・障害者の十年」(昭和58年～平成4年)開始年。
 県 「自閉症障害者実態調査」を実施。



わらび福祉園 (昭和57年)

あさみどりの会のあゆみ

その後法人各事業所においても同様の受入れ実施

11月 「おぎや」献金」にてさわらび園にゲストハウス増築。

2月 16日、父親の会発足。(研修を中心に、発起人 椿泰廣・参加者63名)

3月 30日、4月1日、第1回カウンセリングワークショップ開催。

昭和60年度
(1985年)
さわらび園 園長島崎春樹が愛知県精神薄弱者愛護協会会長就任。(平成4年度まで)

7月 さわらび園学童療育開始。(小学1年〜中学3年まで、以後継続)

昭和61年度12月
(1986年)
さわらび園生活実習棟完成。(清水基金より助成・生活実習は平成元年10月から開始、以後継続)

昭和62年度
(1987年)
1日、あさみどりの会法人設立15周年記念行事開催。(於・ロイヤルホテル弁天閣、さわらび園15周年)

昭和63年度
(1988年)
さわらび園5周年記念

法人15周年記念誌「この子らと共に」、さわらび園5周年記念誌「思い入れ記」刊行。

監事黒宮光一就任(河野博太郎退任)



「思い入れ記」(昭和61年)



「この子らと共に」(昭和61年)

昭和62年度
(1987年)
母親の会「ウイング」発足(代表川松夏子・24名参加)、「もえぎの会」発足(代表椿純子・19名参加)。

父親の会「虹の会」発足。(代表坪内勝彦)

9月 なないろコンサート入選作品集「ぼくがたつて」刊行

3月 理事長村上英治就任(北野博は顧問)、理事村地俊一就任。

昭和63年度4月
(1988年)
あさみどりの会研修所「郡上山の家」一部新築。(以後増築を重ね現在に至る)

6月 わらび園 郡上山の家合宿。(10名ずつ3班に分け1週間、以後継続)

あさみどりの会集い開催、北野前理事長に感謝状贈呈および村上英治教授名古屋大学退官を記念して。

10月 スウェーデンの心理学者モランダ氏、当法人の施設を見学。



わらび第1ホーム(平成元年)



郡上山の家(昭和63年)



村上英治理事長(昭和62年)



あさみどりの会法人設立15周年記念会(昭和61年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和60年 市 在宅障害者デイサービス事業開始。
県協会 「精神薄弱者の地域処遇を考える会」を開催。

昭和61年 国 障害基礎年金制度の創設。
県協会 「ぼくらの展示会」を「愛護祭」と改称し、規模を拡大。

昭和62年 国 4月、社会福祉士及び介護福祉士法公布。(昭63年4月施行) 5月、身体障害者雇用促進法改め「障害者の雇用の促進等に関する法律」公布。(対象者を拡げ、法定雇用量に知的障害者を含む)
市 精神薄弱者グループホーム事業開始。
県協会 「国連障害者の十年」の中間年を記

平成元年 国 グループホームの制度化。
市 4月、精神薄弱者雇用促進事業開始。10月、福祉健康センター(現・市総合リハビリテーションセンター)開設。

平成2年 市 愛知県精神薄弱者福祉連盟「結成」。

平成2年 市 在宅心身障害児(者)緊急一時保護制度拡充。(中度の精神薄弱児者まで対象拡大)

平成3年 市 バブル経済崩壊
重度精神薄弱者タクシー料金助成事業開始。福祉都市環境整備指針策定。

平成4年 「国連・障害者の十年」最終年
9月、マドリッドパラリンピック競技大会開催。(世界初の知的障害者のスポーツ国際大会)
10月、第1回全国ボランティアフェスティバル開催。於・兵庫県
11月、第1回全国的障害者スポーツ大会(ゆっあいピック)開催。(於・東京都)

平成元年 11月 理事鈴木國夫就任。(舟橋玉耀は監事就任)
(1989年) さわらび園改修工事。
舟橋玉耀監事・日本愛護福祉賞受賞。
8月 さわらびキャンプ郡上山の家で実施、現在に至る。(前年まで三重県菟野町キングダムハイム)
10月 わらび園「わらび第1ホーム」開所、プレ・グループホーム開始。(4名3カ月ずつ)
平成2年度 母親の会「あゆみの会」発足。(代表高見早代子・25名参加)
(1990年) 母親の会「あじさいの会」発足。(代表加藤佳代子・9名参加)
牧野正男理事・厚生大臣特別表彰。
村地俊二理事・日本肢体不自由児協会高木賞受賞。
4月 父親の会「あらくさの会」発足。(代表高見茂・22名参加)
1月 わらび園「自立生活を援助する会」発足。(代表吉田政次・22名参加)
平成3年度 さわらび園親子教室「ジョイフル」開設(毎週木曜日)。学童療育を高学年・低学年の2グループに分けて実施。(以後継続)
(1991年) 中北智久理事・藍綬褒章受賞。
4月 1日、わらび園グループホーム「わらび第1ホーム」認可開設。
20日、第1回サロン游(「語り」とトーク)・舟木淳・島崎春樹以後平成7年まで継続)
1月 スウェーデン福祉視察に職員6名派遣。
平成4年度 父親の会「かわせみの会」発足。(代表山田忍・39名参加)
(1992年) わらび園日曜活動開始。(平成16年まで)
4月 1日、「わらび第2ホーム」新築開所(無認可)。
19日 わらび園開園10周年感謝の集い。(於・わらび園)
7月 コミュニティサービス講演会開催「あたりまえのことを、ごくあたりまえに」アメリカ・ニューハンプシャー州コミュニティサービス開発課長ダグ・ワトソン、障害児の母親リンダ・ステア。
10月 24日、第1回全国ボランティアフェスティバル(兵庫県)において、婦人ボランティア「さわらびグループ」厚生大臣表彰受賞。
11月 21日、あさみどりの会法人設立20周年記念行事開催。(於朝日ホール)、記念誌「Human Love」刊行。



ダグ・ワトソン氏、リンダ・ステア氏(平成4年)



コミュニティサービス講演会(平成4年)



わらび園開園10周年感謝の集い(平成4年)



わらび第2ホーム(平成4年)

あさみどりの会のあゆみ

3月 「もえぎの会」と「やどかりの会」が合併して「べにしだの家建設準備会」発足。
理事椿泰廣就任。(牧野正男退任)

平成5年度 母親の会「こもれびの会」発足。(代表山田由美子・31名参加)
平成7年度 6月 19日、父親の会「べにしだの会」発足。
20日、あさみどり会館ボランティアサークル連絡会議開催。(9グループ36名参加)

平成6年度 さわらび卒園児合宿訓練(卒園児母親グループ主催、以後継続)
平成7年度 4月 1日、さわらび福祉園グループホーム「わらび第2ホーム」認可開設。
平成7年度 4月 1日、評議員会設置。(評議員15名)
平成7年度 4月 1日、さわらび福祉園園長代理高濱潔就任。
平成7年度 4月 1日、「べにしだの家」新規職員(12名)、利用者候補(11名)現場実習。(さわらび福祉園において8月まで)

6月 24日、理事長村上英治逝去(70才)、同27日の葬儀には2,000余名が参列。
理事長島崎春樹就任、理事高濱潔就任。

7月 8日、石井パークマン麻子講演会開催「障害の重い人の地域生活援助」(今池ガスビル)。

9月 1日、「べにしだの家」開設。(入所厚生施設定員30名、通所授産施設定員20名・名古屋市中村区鴨付町) 所長にわらび福祉園長島崎春樹、副所長にさわらび園指導主任吉田とき江就任、わらび福祉園園長高濱潔就任。(島崎春樹異動)
12日、べにしだの家竣工式。
23日、べにしだの家竣工感謝の集い開催。(地域住民、ボランティア、あさみどりの会に縁のあった人に内覧を兼ねて無料で食事を楽しんでいただく、来所者延約1,500名)

11月 3日、あさみどり運動会(於・上社公園、べにしだの家が加わり、3施設合同、翌年から平成26年まで中村区豊正中学校で開催)
12月 わらび福祉園自立生活を援助する会が、共同貯蓄の資金でグループホーム用土地・建物購入。(わらび第3ホーム)

3月 監事鶴飼信孝就任。(舟橋玉耀退任)
父親の会「あしたばの会」発足。(代表和田隆雄・33名参加)
母親の会「あんずの会」発足。(代表高見早代子・18名参加)

4月 1日、わらび福祉園グループホーム「わらび第3ホーム」開設。
べにしだの家「郡上山の家」において生活訓練。
15日、べにしだの家月曜サロンボランティア開催(社会人を対象、平成10年まで)

6月 べにしだの家「ふたせ作業所」開設。(職住分離を実施、借家)
7月 法人職員全体研修実施。(年2回、以後継続)
8月 第1回べにしだ盆踊り開催。

9月 1日、わらび福祉園 青年会議所主催グラスデイに参加。(平成14年ノーマライゼーション運動会、平成18年みんなの運動会という名称となる。以後継続参加)

16日、EKO名古屋コンサート開催。(於・愛知県勤労会館、スウェーデンの障害者バンドとないうコンサートがジョイント)
23日、第1回べにしだ祭開催。(以後継続、平成11年から11月3日、令和元年より11月第1土曜日に開催)

28日、29日、第1回ボランティア集会開催。(於・べにしだの家、以後平成14年まで継続、平成16年から26年までボランティアフェスティバル、27年からはボランティアスクールに集約)

10月 べにしだの家一泊旅行(以後随時開催)
12月 わらび福祉園職員情報誌「ラポールわらび」発行(毎月1回、以後継続)

1月 べにしだの家きょうだいでい開催。(以後継続)
3月 わらび福祉園きょうだいでい開催。(以後継続)

平成9年度 4月 20日、第1回父親フォーラム開催。(於・東山会館、146名参加、以後平成18年まで、19年からはフォーラムあさみどりとして実施)
5月 25日、全国的障害者スポーツ大会リハール大会に、わらび福祉園から5名参加。

7月 7月、あさみどりの会職員情報誌「ラポールあさみどり」発行。(年4回、以後継続)
法人職員全体研修(他に新人、中堅、上級研修などの法人内研修を実施)



あさみどりの会設立25周年記念会(平成9年)



第1回父親フォーラム(平成9年)



べにしだの家竣工式(平成7年)



べにしだの家(平成7年)



島崎春樹理事長(平成7年)



あさみどりの会法人設立20周年記念会(平成4年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

12月、第47回国連総会において「12月3日を国際障害者デー」とする宣言を採択。

平成5年 「国連・アジア太平洋障害者の10年」

国 障害者基本法公布。

平成6年 国 4月、民生局障害福祉部を新設し、障害施設課、障害福祉課を設置。西部地域療育センター開設。(通園施設ひよし学園廃止/現べにしだの家敷地) 6月、地域リハビリテーション実施。9月、精神薄弱者更生相談所(現・知的障害者センター・サンハート)開設。

平成7年 国 「児童の権利に関する条約」批准。12月、「障害者白書」刊行。

市 障害者施策推進協議会設置。阪神淡路大震災。

平成7年 国 「障害者週間」(12月3日~9日)が設定される。「障害者白書」策定。



あさみどり運動会—豊正中学校(平成8年)



わらび第3ホーム(平成8年)

平成9年 国 障害者の雇用の促進に関する法律一部改正。(知的障害者の雇用義務化)
社会福祉法人の設立認可・指導監査等の業務が県から市へ移譲される。
市 知的障害者ガイドヘルパー派遣事業開始。

あさみどりの会のあゆみ

9月 アメリカ人音楽療法士エドウィンさんによる、わらび福祉園グループホーム住人対象の音楽療法開始。(平成11年10月まで、平成11年12月からは新しい講師瀬田なお子さんが引継ぎ継続)

3月 べにしだの家保護者を父親の「自立をすすめる会」と母親の「保護者会」に組織変更。

平成10年度 4月 わらび福祉園定員33名(旧30名)変更。
べにしだの家通所授産、定員29名(旧20名)に変更。
5月 24日、三好町町政40周年ふるさと功労賞 法人として受賞。
6月 べにしだの家「ながおさ作業室」開設。(ふたせ作業室閉鎖)

平成11年度 1月 わらび福祉園定員34名(旧33名)変更。
母親の会「東風の会」発足。(代表服部由美子・21名参加)
あらくさバザー開催。(以後継続)

平成12年度 9月 機関紙「療育援助」300号記念特集。
父親の会「フォルテ」発足。(会長服部正美・18名参加)
法人合同きょうだい会開催。(以後継続)

平成13年度 3月 中学生合宿開始。(10名定員・3泊4日、以後継続)
小規模作業所「あらくさ」名古屋市障害者共同作業所補助対象

平成14年度 2月 わらび福祉園絵の会開始。(以後継続)
母親の会「凧の会」発足。(代表嶋弘美・22名参加)
1日、「れいんぼうワークス」開設。(通所授産施設定員20名・海部郡佐屋町) 所長に植田一雄就任。
1日、べにしだの家グループホーム「こがもホーム」(借家・定員4名) 開設。
21日、れいんぼうワークス竣工式。
25日、ボランティア同窓会開催。(約120名が参加)

平成15年度 4月 れいんぼうワークス「自立の会」発足。(会長江尻富吉)
5月 れいんぼうワークス第1回れいんぼう祭開催。(以後継続)

平成16年度 7月 べにしだの家自活訓練棟「第2小鴨ハウス」開設。(定員4名)
べにしだの家茶房「游」開店。(平成25年まで中村区小鴨町)
れいんぼうワークス父親懇談会開催。



べにしだの家茶房「游」開店(平成15年)



あさみどりの会法人設立30周年記念会(平成14年)



「べにしだ物語」(平成14年)



れいんぼうワークス竣工式(平成14年)



小規模作業所「あらくさ」(平成11年)



ながおさホーム(平成10年)



第3回あさみどりの会ボランティア集会(平成10年)



「父たち」(平成10年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成10年 国 「特定非営利活動促進法」成立。「精神薄弱の用語整理のための関係法の一部改正。(知的障害に変更)

平成11年 市 知的障害者センター(知的障害者更生相談所・障害者高齢者権利擁護センター・障害者雇用支援センター)を開設。
東海豪雨。

平成12年 国 「介護保険法」「成年後見制度」施行。
社会福祉構造改革実施。社会福祉制度を措置制度から契約制度に、応能負担から応益負担に転換。民間企業を含む多様なサービス提供主体の参入を推進。
「介護保険法」施行。「児童虐待防止法」公布。「交通バリアフリー法」公布。
市 民生局と衛生局を統合し、「健康福祉局」を設置。

平成13年 世界保健機関・「国際生活機能分類(ICF)」採択。
9月、「障害者に関する世論調査」実施。
第1回全国障害者スポーツ大会開催。(於：宮城県 身体障害者知的障害者の全国大会を統合)

平成14年 国 「障害者基本計画」「重点施策実施5か年計画(新障害者プラン)」策定。
「障害者基本計画」策定。
市 「障害者地域生活支援センター」を16区に設置。

平成15年 国 「支援費制度」施行。
市 北部地域療育センター開設。

あさみどりの会のあゆみ

平成16年度
 島崎春樹理事長・愛護福祉賞受賞。
 平成17年度
 平成18年度
 平成19年度
 平成20年度
 平成21年度

10月 べにしだの家グループホーム「かもつけホーム」開設。(借家・定員4名、中村区鴨付町)
 平成16年度 島崎春樹理事長・愛護福祉賞受賞。
 平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度

4月 べにしだの家グループホーム「あらくさの家」開設。(定員4名、千種区東明町)
 11月 27日、第1回ボランティア・フェスティバル開催。(平成26年まで開催、27年からボランティア・フェスティバルに集約)
 母親の会「リズム」発足。(代表中村美佐子・11名参加)
 平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度

4月 べにしだの家グループホーム「神田ホーム」(借家・定員6名、千種区神田町)、わらび福祉園グループホーム「笑の家」(定員7名、三好町)、れいんぼうワークスグループホーム「虹の家」(定員4名、愛西市)開設。
 わらび福祉園居宅介護事業所「ヘルパーステーション笑の家」(三好町)、べにしだの家居宅介護事業所「ヘルパーステーションべにだ」(中村区、平成21年6月まで)開設。

7月 べにしだの家おうまさん倶楽部開始。(令和3年まで)
 9月 小学生合宿開始。(定員10名・2泊3日、以後継続)
 11月 べにしだの家グループホーム「城屋敷ホーム」開設。(借家・定員5名、「かもつけホーム」を閉鎖して移転。中村区城屋敷町)
 12月 3日、べにしだの家開設10周年記念会開催。(於・愛知厚生年金会館) 記念誌「愛と自由と安心を」刊行。

1月 1日、障害者自立支援法の施行に伴い、法的には法人の各事業所活動)
 平成18年度 4月 法人入所施設、各ホーム土曜日帰省開始。(それまでは原則金曜日帰省)
 平成19年度 4月 べにしだの家所長吉田とき江就任。(島崎春樹退任)
 平成20年度 7月 べにしだの家グループホーム「ゆうゆう」開設。(「第2小鴨ホーム」からの名称変更及び移転。これにより自活訓練棟を閉鎖)

10月 1日、障害者自立支援法の施行に伴い、法的には法人の各事業所活動)
 平成18年度 4月 法人入所施設、各ホーム土曜日帰省開始。(それまでは原則金曜日帰省)
 平成19年度 4月 べにしだの家所長吉田とき江就任。(島崎春樹退任)
 平成20年度 7月 べにしだの家グループホーム「ゆうゆう」開設。(「第2小鴨ホーム」からの名称変更及び移転。これにより自活訓練棟を閉鎖)

10月 1日、障害者自立支援法の施行に伴い、法的には法人の各事業所活動)
 平成18年度 4月 法人入所施設、各ホーム土曜日帰省開始。(それまでは原則金曜日帰省)
 平成19年度 4月 べにしだの家所長吉田とき江就任。(島崎春樹退任)
 平成20年度 7月 べにしだの家グループホーム「ゆうゆう」開設。(「第2小鴨ホーム」からの名称変更及び移転。これにより自活訓練棟を閉鎖)

のグループホームはケアホームとなり、新たに「わらび共同生活事業所」(4カ所20名)、べにしだ共同生活事業所(6カ所30名)、「れいんぼう共同生活事業所」(1カ所4名)として開設。(以下共同生活事業所の表記省略。法人としてはグループホームのまま呼称)
 「べにしだの家分場あらくさ」開設。(借家・定員11名、小規模作業所あらくさから移管、千種区神田町へ移転)
 べにしだの家 通所定員40名(旧29名)変更。
 11月 理事島村善照就任。(鈴木國夫退任)
 3月 18日、マザース・フェスタ開催。(於・愛知厚生年金会館)
 25日、れいんぼうワークス5周年記念会(於・厚生年金会館)
 さわらび園土曜日開園実施。わらび福祉園増築。
 平成19年度 4月 1日、さわらび園園長島崎徹也就任。(島崎左世退任)
 5月 べにしだの家グループホーム「城屋敷ホーム」定員7名(旧5名)変更。
 20日、法人設立35周年記念会・兼第1回フォーラムあさみどり(父親フォーラム改め)開催。(於・厚生年金会館、以後継続)
 べにしだグループホーム「こがもホーム」開設。(定員4名、自活訓練棟小鴨ハウスを閉鎖。平成14年開設の借家のこがもホームを閉鎖して移転)
 7月 べにしだの家分場あらくさ父親参観実施。
 7月 第1回障害児(者)発達支援セミナー開催。(障害児療育セミナーを改称、平成25年まで継続、翌年からあさみどりワークショップとして実施)
 11月 平成20年度 平成21年度
 3月 機関紙「療育援助」400号記念特集。
 わらび福祉園園長高濱潔が愛知県知的障害者福祉協会会長に就任。(平成21年まで)
 母親の会「宙の会」発足。(代表臼井利絵・15名参加)
 4月 1日、わらび福祉園新体系移行。(生活介護定員28名・就労移行支援定員6名)
 れいんぼうグループホーム「虹の家Ⅱ」開設。(定員7名、愛西市西條町)
 わらび福祉園みよし市より相談支援事業受託、事業開始。



第1回ボランティアフェスティバル(平成16年)



虹の家(平成17年)



「愛と自由と安心を」(平成17年)



第1回フォーラム・あさみどり(平成19年)



れいんぼうワークス5周年記念会(平成19年)



第1回障がい児(者)発達支援セミナー(平成19年)

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成16年 国 「障害者基本法改正」
 「発達障害者支援法公布」
 市 名古屋市障害者基本計画(平16)25策定。地域子育て支援センター事業開始。
 平成17年 愛知万博「愛・地球博」開催。(於愛知県 日本国際博覧会)
 国 「障害者自立支援法公布」



笑の家・ヘルパーステーション笑の家(平成17年)

平成18年 国 「障害者自立支援法全面施行」
 グループホームがグループホームとケアホームに分化される。
 市 子ども青少年局「新設。障害福祉部を再編し、障害企画課及び障害者支援課を設置。発達障害児(者)相談支援事業開始。(児童福祉センター内)



べにしだの家分場あらくさ(平成18年)千種区神田町、サンサンビル1階(3階、神田ホーム)

平成19年 国 国連「障害者の権利条約」署名。障害者施策における「重点施策5カ年計画」策定。



ゆうゆう(平成18年)こがもホーム(平成19年)

平成20年 米証券大手リーマンブラザーズが破綻し世界金融危機が急速に進展。
 国 障害者自立支援法の抜本的な見直しに向けた緊急措置。

あさみどりの会のあゆみ

平成25年度 4月 1日、さわらび園 障害児通所支援事業・「放課後等デイサービス定員10名」「保育所等訪問支援」「障害児相談支援」開始。べにしろグループホーム「いなばじホーム」開設。（定員7名、中区稲葉地町）

5月 わらび共同生活援助事業所 支援者養成講座開催。（以後継続）

10月 わらびグループホーム「風の家」開設。（定員7名、みよし市三好町）

平成24年度 4月 1日、さわらび園 園長吉田とき江就任（島崎徹也異動）、べにしろの家 所長追分伸夫就任（吉田とき江異動）、れいんぼうワークス所長 島崎徹也就任（植田一雄異動）。

6月 べにしろグループホーム「あらわいの家」開設。（定員7名、「城屋敷ホーム」を閉鎖して移転）

7月 「あらわいの作業所」開設。（べにしろの家利用者の日中活動の場として使用、なおさ作業所を閉鎖して移転）

3月 1日、あらくさの会発足20周年・作業所開設10周年記念会開催。（於・東京第一ホテル錦） 記念誌「営々と20年あらくさの会」刊行。

平成21年度 4月 26日、特定非営利活動法人「蒼の会」設立。（理事長椿純子）

平成22年度 4月 1日、べにしろの家（生活介護定員70名施設入所支援定員30名）れいんぼうワークス新体系移行。（生活介護定員20名）

平成23年度 4月 1日、わらび福祉園就労継続B型開始。（定員10名、全体で44名）

平成24年度 4月 1日、わらび福祉園就労継続B型開始。（定員10名、全体で44名）

平成25年度 4月 1日、さわらび園 障害児通所支援事業・「放課後等デイサービス定員10名」「保育所等訪問支援」「障害児相談支援」開始。



支援者養成講座 各成人事業所で実施（平成25年～）



いなばじホーム（平成25年）



わらび福祉園30周年記念会（平成24年）



法人設立40周年記念会（平成23年）



クラブジャズ発会式典（平成23年）



さわらび誕生会（平成21年）



れいんぼうワークス地域交流室（平成21年）

平成25年 国 「障害者差別解消法」「障害者雇用促進法」改正。
日本が「障害者権利条約」を批准。

平成24年 国 「障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）」成立。
市 指定障害福祉サービス事業所等
の指定・指導事務が愛知県から
移譲・障害者虐待相談センター
開設

平成23年 東日本大震災。
国 障害者虐待防止法成立。（平成24年
10月施行）
改正障害者基本法成立。（発達障
害を法上に位置づけ、3年後に改
正）

平成22年 国 内閣府に「障がい者制度改革推進
会議」設置。「障害者自立支援法改
正法（つなぎ法）」及び関係法とし
て児童福祉法の一部改正法が成
立。（平成24年4月1日施行）
市 成年後見あんしんセンター開設。

平成21年 国 政府は利用者負担を「応能負担」を
原則とする自立支援法改正案を国
会に提出。
政権交代。（民主、社民、国民の
連立内閣成立）

平成20年 あらくさの会
営々と20年あらくさの会
（平成21年）

平成20年 あらくさの会
営々と20年あらくさの会
（平成21年）

平成20年 あらくさの会
営々と20年あらくさの会
（平成21年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成27年度
 (2015年)4月
 11月
 9月
 10月
 11月
 11月
 11月
 11月
 平成28年度4月
 (2016年)
 9月
 9月
 9月
 10月
 11月
 2月
 3月
 4月
 5月
 9月
 10月
 10月
 10月
 平成29年度4月
 (2017年)5月
 5月
 10月
 10月

知県芸術劇場)、「なないろコンサートCD「きせき」(全21曲)刊行。19日、べにしだの家20周年記念会開催。(於・ルブラ王山) 記念誌「えにしを繋いで・べにしだのアルバム20年のあゆみ」刊行。4日、さわらび運動会開催。(昨年度までの成人施設との合同運動会からさわらび園単独の運動会となる) 10日、わらび秋まつり開催。(昨年度までの夏まつりから開催時期、名称を変更) 9日、元れいんぼうワークス 所長植田一雄急逝。 11月、れいんぼう共同生活援助事業所、支援者養成講座開始。(以後継続) 1月、べにしだの家 日中活動に活用するために植物栽培装置「おあしすくん」を開発、特許取得。 「援け合うところを育て」会の発足から59年間にわたる活動の足跡」刊行。 年2回の法人全体研修の内、2回目を各事業所の実践発表の場とする。(以後継続) さわらび園 放課後等デイサービスに音楽療法を取り入れる。(以後継続) 9月、れいんぼうワークス 本体及び虹の家Ⅰ、Ⅱ外壁改修工事。 10月、れいんぼうワークス 音楽療法を導入。 11月、れいんぼうワークス 音楽療法を導入。 2月、さわらび園 放課後等デイサービスの音楽療法の「環」としてダンスを取り入れる。(H29年4月より単独の活動となり以後継続) 3月、18日、元さわらび園 園長島崎左世逝去。(82歳) 4月、わらび福祉園 将来の高齢化対応型ホームとして風の家Ⅱを開設。 5月、社会福祉法人制度改革に伴い、新たな理事会及び評議員会体制となる。 5月、発達障害対応研修開始。(社会福祉法人やまびこの里、小林信篤氏を講師に成人事業所を対象として年間3〜4回開催) 9月、さわらび園 児童発達支援との一体的運営が認められなくなったため放課後等デイサービスを廃止。利用者が全員卒園児であることから児童療育と位置付け、「放課後クラブ」として継続。 10月、母親の会「コパン」発足。(代表江本尚子・17名参加) 10月、わらび福祉園 みよし商工会よりクッキーが「みよしぐらんど」に認定される。

平成26年度
 (2014年)
 11月
 2月
 3月
 3月
 4月
 4月
 7月
 7月
 11月
 11月
 11月
 平成27年度
 (2015年)4月
 1月
 11月
 11月
 11月
 平成26年度
 (2014年)
 11月
 2月
 3月
 3月
 4月
 4月
 7月
 7月
 11月
 11月
 11月

さわらび園仮園舎(プレハブ)にて療育開始。 28日、さわらび園新園舎着工。 さわらび祭園舎建替えのため中止。 30日、公益財団法人糸賀一雄記念財団より糸賀一雄記念賞受賞。 母親の会「JOY!!」発足。(代表中山麻友子・16名参加) DVD「この子らを世の光に」(昭和43年映画をDVDに)刊行、ほかに法人で今までに映画制作のフィルムが現存していたものを全てデジタル化。 4月、れいんぼうワークス定員20名(旧23名)変更。 7月、1日、れいんぼうグループホーム「虹の家Ⅴ」開設。(定員6名、愛西市西條町) 4日、さわらび園新園舎で療育開始。 20日、さわらび園竣工式、新園舎お披露目パーティー。 記念誌「42年間にわたる母子通園のあしあと」刊行。 「42年間にわたる母子通園のあしあと」刊行。 理事長後藤秀爾就任(島崎春樹顧問就任)、理事鶴飼信孝、追分伸夫、島田修三就任(中北智久退任、高濱潔相談役就任)、監事菅沢豊就任(鶴飼信孝理事就任) 法人設立者伊藤方丈から運営及び経営を託された島崎春樹、法人設立時からの理事であった中北智久、運営管理基礎を作った高濱潔が退任、新体制の下での出発となる。 11月、11日、ワークショップ開催。(昨年度までの障害者発達支援セミナーから内容変更、以後継続) 父親の会「かたむり」発足。(代表谷口弘記・17名参加) 法人本部事務局体制始動。(島崎徹也事務局長、葛原成美事務局次長) 11月、れいんぼうワークス所長鷲見まち子就任。(葛原成美異動) 5日、なないろコンサートCD発売記念コンサート開催。(於・愛



「この子らを世の光に」DVD(平成26年)



糸賀一雄記念賞受賞(平成26年)



風の家Ⅱ(左側/平成29年)



べにしだの家20周年記念会(平成27年)



後藤秀爾理事長(平成26年)



さわらび園竣工式(平成26年)



さわらび園新園舎(平成26年)



さわらび園仮園舎(平成25年11月~26年6月)

平成29年
 国)「社会福祉法人制度改革(経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化等)の施行。 国)児童発達支援ガイドライン策定。提供すべき支援として「発達支援」「家族支援」「地域支援」が示された。

平成28年
 7月26日未明、相模原障がい者施設殺傷事件発生 国)「障害者差別解消法」施行 地域共生社会の実現を盛り込んだ「日本一億総活躍プラン」が閣議決定。 市)「名古屋市障害者差別相談センター」開設。



「えにしを繋いで」(平成27年)



なないろコンサートCD「きせき」(平成27年)



「42年間にわたる母子通園のあしあと」(平成26年)



虹の家Ⅴ(平成26年)

平成26年
 国)「障害者総合支援法」改定、ケアホームがグループホームに一元化。

3月 さわらび園 新池盆踊りの企画、運営に携わる中学生から社会人までの卒園児と学生ボランティアを交えた「盆踊り実行委員会」を発足。（令和元年度からは、より幅広い活動を行うサークル的なグループ「ジャイアントステップス」として活動開始）

3月 わらび福祉園 就労移行支援事業を廃止。

平成30年度 4月 さわらび園 園長山本智恵就任。（島崎徹也退任）法人総合施設長島崎徹也就任。（事務局長兼務）

2018年 6月 監事 渡邊冬樹就任。（小林博義退任）

9月 法人規模の拡大に伴い、法人の理念を共有しつつ、より地域に根差した拠点として良質な活動を追求していくことを目指し、わらび福祉園を新法人「あさみどりの風」わらび、として分割するための設立準備委員会を発足。（令和元年12月までに4回開催）

11月 べにしだの家「従たる事業所」のあらくさ作業室を独立させる構想を提示。

12月 れいんぼうワークス 施設南側の土地を購入（令和2年4月に駐車場と畑として整備、953㎡）

1月 わらび福祉園 地域包括支援と連携し、地域の高齢者の集いの場「わらびカフェ」を開始。（毎月1回）

令和元年度 4月 れいんぼうワークス 全国の農福連携の事業所が参加する「農福連携自然栽培パーティー全国協議会」に加入。

2019年 5月 れいんぼうワークス 東屋設置。

6月 理事 熊谷かの子就任。（寫村善照退任）

6月 わらび共同生活援助事業所 定員28名から29名に増員。

7月 監事 渡邊冬樹逝去

11月 監事 渡邊勝就任。

12月 あらくさ作業室の将来の独立に向けて1階と2階の大規模改修を実施。

令和2年度 5月 「社会福祉法人あさみどりの風」設立が認可される。

2020年 5月 べにしだの家開設時の本来の目的であった「地域移行」を再確認し将来の快適かつ適切な居住環境を整えるために生活棟をグループホームに転用する構想を提示。（以後、名古屋市と協議継続）

6月 わらび福祉園 就労継続B型事業の新たな活動場所として、みよし市役所前にうどん店「和來wara」を開店。

7月 べにしだの家 事務所改修工事。

9月 「わらびの途」開園から38年、新法人設立に向けて」刊行

10月 理事 山本智恵就任。（熊谷かの子退任）

10月 1日、法人分割により「社会福祉法人あさみどりの風」わらび（理事長 熊谷かの子）開設。

※新型コロナウイルスの感染状況により、本年度以降各種法人事業、行事、研修等の開催に継続的に影響がみられている。

令和3年度 4月 法人事務局長 追分伸夫就任。（あらくさ作業室所長兼務、島崎徹也異動）べにしだの家 所長島崎徹也就任。（追分伸夫異動）

2021年 島崎春樹顧問・瑞宝双光章受賞。

5月 前わらび福祉園園長（法人専務理事）高濱潔逝去。（86歳）

6月 べにしだの家 本体内に第3作業室を新築。

6月 母親の会「いちごの会」発足。（代表塩野維子・19名参加）

8月 べにしだ共同生活援助事業所 こがもホーム改修工事。

令和4年度 4月 れいんぼうワークス 所長田中雅樹就任（鷺見まち子異動）、あらくさ作業室 所長鷺見まち子就任（追分伸夫異動・法人事務局長専任）

6月 れいんぼうワークス 生活介護定員20名から23名に増員。

11月 27日、法人設立及びさわらび園開設50周年記念「フォーラム・あさみどり」開催。（於・東京第二ホテル錦）

記念誌「早蕨—さわらび—出会いと感謝の50年—」刊行。

※本年を以てわらび40周年、れいんぼうワークス20周年の節目を迎える。

3月 「援け合つてを育んで」会の発足から65年間にわたる活動の足跡」刊行。



法人設立50周年記念会「フォーラムあさみどり」(令和4年)



べにしだの家 第3作業室(令和3年)



和來～wara～(令和2年)



れいんぼうワークスの東屋と花壇(令和元年)



れいんぼうワークス前の畑と駐車場(平成30年)



「早蕨-さわらび-」(令和4年)



「わらびの途」(令和2年)

令和3年 国) 新型コロナウイルス感染拡大のため延期されていた東京オリンピック、パラリンピックが開催。

令和4年 国) 「社会福祉連携推進法人制度」施行。

令和2年 国) 障害者の法定雇用率2.2%→2.3%に引き上げ。

市) あけぼの学園敷地内移転改築

令和元年 国) 5月1日、「平成」から「令和」に改元。

10月、消費税率が8%→10%に引き上げ。

12月、中国・武漢で新型コロナウイルス発生、世界的な大流行へ。

市) 名古屋市障害者就労支援窓口「ウェルジョブなごや」開設。

平成30年 国) 幼児教育・保育無償化実施のための子ども・子育て支援法改正案閣議決定。

市) 「障害者通院時コミュニケーション」支援事業開始。

名古屋市障害者基本計画(令1～5)策定。